

# 鉄骨向け小物切板 納期「半減」へ

## 全社横断プロジェクト進捗

### 神鋼鋼板加工

建材型厚板溶断業大手の神鋼鋼板加工（本社・千葉  
 縣市川市、社長・水上孝一氏）は、建築鉄骨向け小物  
 切板の二次加工も含めた納期対応力を強化し、顧客満  
 足度向上による受注増と収益力アップを全社一丸で実  
 践する。従来の組織やシステムの変更、DX活用といっ  
 たソフト面と設備増強などのハード面を組み合わせ、  
 受注から出荷までの全体工期を「今よりも半減」させ  
 る。その上で小物切板と二次加工を増やし、付加価値  
 を高める狙い。（5面「流通加工版」関連記事）

同社ではこの取り組みで全社員参画PJと位置付けた。4年4月〜25年12月  
 TQM（総合的品質管理）活動とし「超短工期特別対応プロジェクト」と名付け、戦略思考のもと営業から品証、CAD、工程、工場が一体となり全社横断的に今年4月から着手した。

鉄骨向け小物切板の納期に対する顧客からの評価を高めるのが目的で、そのために「小物切板のフレキシブルな生産体制再構築」を社内の上工程から下工程まで一貫通貫で実施



「超短工期」用に移設したNCガス溶断機

とステップ2（26年1〜12月）にフェーズを分け、最終的に①鉄骨小物切板の平均工期を現状比半分に短縮②ファイバーレーザー切断機の新設による薄物加工能力強化と中厚板の夜間切断実施③組織改編を検討の実現を目指す。全社員への理解・

浸透を促進させるためキヤッチフレーズを「鉄骨小物材の取り込み×二次加工倍増」稼働力アップ！とした。PJスタートから7カ月強が経過。この間に、廃業した切板外注委託先からNCガス溶断機1台を移設し「超短工期用」としての活

用を開始したほか、既存ガス溶断機同士のデータ共通化や4号レーザー切断機架台の一部を「短工期用スペース」として確保するなどハード面での取り組みを着々と進めている。

ソフト面でも切断指図書や素材ラベル、素材手配カードの改良と色付けの自動色彩化に改良。「超短工期」が一目瞭然の朱ハンコの作成・使用やGPS機



朱印で一目瞭然に

用を開始したほか、既存ガス溶断機同士のデータ共通化や4号レーザー切断機架台の一部を「短工期用スペース」として確保するなどハード面での取り組みを着々と進めている。

ソフト面でも切断指図書や素材ラベル、素材手配カードの改良と色付けの自動色彩化に改良。「超短工期」が一目瞭然の朱ハンコの作成・使用やGPS機